

平成30年3月期 決算説明資料

MINATO

平成30年5月17日

ミナトホールディングス株式会社

- 1 平成30年3月期連結決算サマリー
- 2 事業概要
- 3 ミナトホールディングスの戦略と実績
- 4 平成31年3月期連結業績予想



平成30年3月期連結決算サマリー

売上高

前期比 **74%**増、5期前の **10**倍に経常
利益前期比 **2.4**倍、営業利益は **2.1**倍当期
純利益前期比 **13**倍を超え、大幅な **増益**

【主な要因】

- メモリーモジュール事業のDRAM及びNAND価格の上昇と販売増
- 国内外でのオートハンドラの拡販、プログラマ及び変換アダプタの販売が堅調

(単位：百万円)

連結 損益計算書	平成29年 3月期	平成30年 3月期	前年度比
売上高	7,981	13,886	74%増
売上総利益	1,239	1,418	14%増
営業利益	119	252	2.1倍
經常利益	71	176	2.4倍
当期純利益	11	151	13倍超

(単位：百万円)

連結貸借対照表	平成29年3月31日	平成30年3月31日
流動資産	5,439	7,874
固定資産	1,240	1,252
資産合計	6,679	9,129
流動負債	3,770	5,286
固定負債	695	1,404
負債合計	4,466	6,691
純資産合計	2,213	2,437
負債純資産合計	6,679	9,129



事業概要

ミナトホールディングス

メモリー
モジュール

サンマックス・
テクノロジーズ(株)

デバイス
プログラマ

ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ
カンパニー

ディスプレイ
ソリューション

システム
ソリューション

(株)イーアイティー

売上高 **11,826**百万円

731

575

704

営業利益 **391**百万円

118

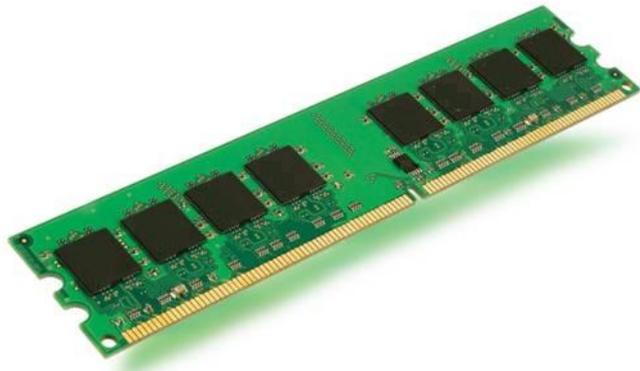
36

39

(平成28年4月よりグループ化)

(平成26年4月よりグループ化)

主に産業機器用途向けメモリーモジュールの製造・販売を手掛けるIoT関連のサンマックス・テクノロジーズ株式会社が展開。全数検査を実施し、高品質の製品供給が強み。



DIMM（メモリーモジュール）

複数のメモリーチップを基板に実装したもの。メモリーといえばこれを指すことが多い。パソコンでは、DIMM（Dual Inline Memory Module、ディム）と呼ばれるDRAMを基板に搭載したメモリーモジュールが一般的。RAMボード、RAMモジュールとも呼ぶ。

【業績の概況】

コンピュータ記憶装置のDIMM及びSSDの主要調達部材であるDRAM並びにNANDの需給が引き締まったことにより、製品価格が上昇、販売数が増加。前期と比べて売上高97%増、営業利益22%増の実績となった。

プログラマ業界のリーディングカンパニーとして、あらゆるニーズに迅速に対応できる高い技術力と開発体制を確立し、国内外で展開。



デバイスプログラマ
(ROMやCPU等のデバイス
にデータを書込み・読込み
等をする機器)



自動プログラミング
システム
(オートハンドラ)

【業績の概況】

国内外でオートハンドラの販売が拡大したことに加え、車載機器向け・産業機器向けにデバイスプログラマ及び変換アダプタの販売が堅調に推移。前期と比べて売上高6%増、営業利益28%増の実績となった。

平成28年より新ROM書込みセンターを開設し、自社ブランドのデバイスプログラマでROM書込み事業を展開する国内唯一の事業会社として、低価格、短納期、高品質を実現できる体制を実現。



月産100万個以上のROM書込みに対応する新ROM書込みセンター

インテリジェント・ステレオカメラ事業

業務提携先の東工大発ベンチャーITD Lab株式会社と連携し、インテリジェント・ステレオカメラ事業を推進。

高性能2眼カメラを用いて測距、形状認識を高速で行う新製品の開発を実現し、多くの企業との商談が進行中。



インテリジェント・ステレオカメラ 「ISC-100VM」

中型および大型タッチパネルやデジタルサイネージなど、高品質で幅広いラインナップを取り揃える。国内外の企業と業務提携を進め、付加価値の高い製品の提供に努める。



テーブル型タッチパネル
「キッズ・タッチ」



駅構内の
新型自販機



コンテナ型デジタルサイネージ
「G-Smatt CUBE」

【業績の概況】

ATM向けや国内アミューズメント向けタッチパネルが受注減となったことの影響等により、前期比6%減収となったものの、高付加価値製品の販売や販管費の抑制により、営業利益は115%増益となった。

日本サインホールディングス(株)との資本業務提携

全国の鉄道、ホテル、商業施設、学校等でサイン事業および広告事業を手掛ける同社を5月に持分法適用関連会社化。今後、当社のディスプレイソリューション事業との相乗効果を狙う。



ITビジネスや金融機関のシステム導入等において、株式会社イーアイティーが情報処理システムの受託開発および技術者派遣を実施。



高度な暗号化ソリューション「データロッカー」

【業績の概況】

従来の人材派遣型ビジネスが安定的な受注を確保、加えて受託開発案件についてプロジェクト管理・品質管理を強化した結果、収支が改善。前期と比べて売上高2%増、営業利益は3%増益と堅調に推移した。



ミナトホールディングスの戦略と実績

経営理念

常に新しい技術に挑戦し、社会に価値ある製品やサービスを提供することで、お客様、株主、従業員の満足度を高める企業になる

ミナトホールディングスの大方針

- 技術を活用した特色ある製品・サービスを提供する企業をグループ化し、各社の経営を成長・サポートします
- 経営力、財務力を強化し、より新しい技術、市場に挑戦する企業を生み出します
- 収益力を高め、株主に報い、利益の一部を活用し、人や社会に貢献します



ミナトホールディングスの上位株主（平成30年3月末時点）

順位	株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
1	若山 健彦（当社代表取締役社長）	360	4.8
2	SBI証券	203	2.7
3	松井証券	178	2.3
4	個人株主	140	1.8
5	日本証券金融	116	1.5
6	入交グループ本社	114	1.5
7	BANK JULIUS BAER AND CO., LTD.	90	1.2
8	個人株主	88	1.1
9	GMOクリック証券	80	1.0
10	相澤 均（当社常務取締役、サンマックス・テクノロジーズ代表取締役社長）	76	1.0

1

ファイナンス

2

M&A、業務提携

3

新規事業

金融機関出身の経営陣らの豊富な経験と知見を活かし、資本調達と銀行借入等を組み合わせ、機動的な資金調達を実施

年月	事象
平成24年 6月	若山健彦が代表取締役社長に就任
平成25年 3月	第三者割当増資による新株式発行で0.7億円を調達
平成25年 11月	第三者割当増資により、新株式と新株予約権を合わせて1.9億円を調達
平成28年 2月	第三者割当増資により、新株式と新株予約権を合わせて12.8億円を調達
平成28年 9月	短期借入金の契約更改に合わせて、新規にシンジケートローンを組成

M&Aや資本業務提携、ベンチャービジネスの発掘を積極展開し、事業規模を拡大。収益の大幅増大を実現

年月	事象
平成26年 3月	株式会社サンエスと業務提携
平成26年 4月	株式会社イーアイティーを子会社化
平成27年 2月	クロス・メディア・ネットワークス株式会社と資本業務提携 (平成28年9月に提携解消)
平成28年 4月	サンマックス・テクノロジーズ株式会社を子会社化
平成28年 7月	株式会社TOUAのROM書込み事業を譲り受け
平成29年 3月	日本ジョイントソリューションズ株式会社を子会社化
平成30年 5月	日本サインホールディングス株式会社を持分法適用 関連会社化

海外展開および新規事業に関する子会社設立を通じて、 新たな分野への挑戦を継続

年月	事象
平成25年 9月	中国連絡事務所を開設
平成26年 1月	バンコク連絡事務所を開設
平成27年 7月	商号変更、社内カンパニー制を導入
平成28年 1月	新ROM書込みセンターを開設
平成28年 3月	中国現地法人が営業開始
平成28年 5月	フィンテック事業に関する共同出資子会社を設立
平成28年 12月	財務コンサルティング事業に関する子会社を設立
平成29年 5月	ITD Lab株式会社と業務提携
平成30年 10月	技術製造子会社「ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ株式会社」が稼動開始し、持株会社体制に移行予定

平成30年3月期の海外売上高比率は前期の17.3%から29.2%へ増加。
今後さらに海外事業を拡大し、海外売上高比率を高めていく

- ① デバイスプログラマ事業とディスプレイソリューション事業を展開する社内カンパニーを統合し、技術製造子会社「ミナト・アドバンスト・テクノロジー株式会社」を設立

さらなる規模拡大と
効率化の追求

これまで長年にわたり培っ
てきた技術力の引き継ぎ

技術メーカーとしてのDNAを維持した技術
製造子会社として10月より事業展開予定

新規事業開発への
挑戦

従業員の一体感醸成と
モチベーションの向上

②ミナトホールディングス株式会社は10月より持株会社体制へ移行

市場環境の変化に柔軟
に対応できるスピーディー
な意思決定が可能な
経営体制の構築

グループ会社に権限を
委譲することによる経営
責任の明確化

さらなる事業成長の加速化と
企業価値の向上を実現

10月から持株会社体制へ移行予定

ミナトホールディングス(株)

MDCとMTCを統合したMATカンパニーが10月より技術製造子会社のミナト・アドバンス・テクノロジーズ(株)として稼動予定

サンマックス・
テクノロジーズ(株)

メモリーモジュール

ミナト・アドバンス・
テクノロジーズ(株)

デバイスプログラマ
ディスプレイソリューション

(株)イーアイティー

システムソリューション

5月より持分法
適用関連会社

港御(上海)
信息技术
有限公司

中国現地法人

スマート
レスポンス(株)

フィンテック

ミナト・フィナン
シャル・パート
ナーズ(株)

財務コンサルティング

日本ジョイン
トソリューショ
ンズ(株)

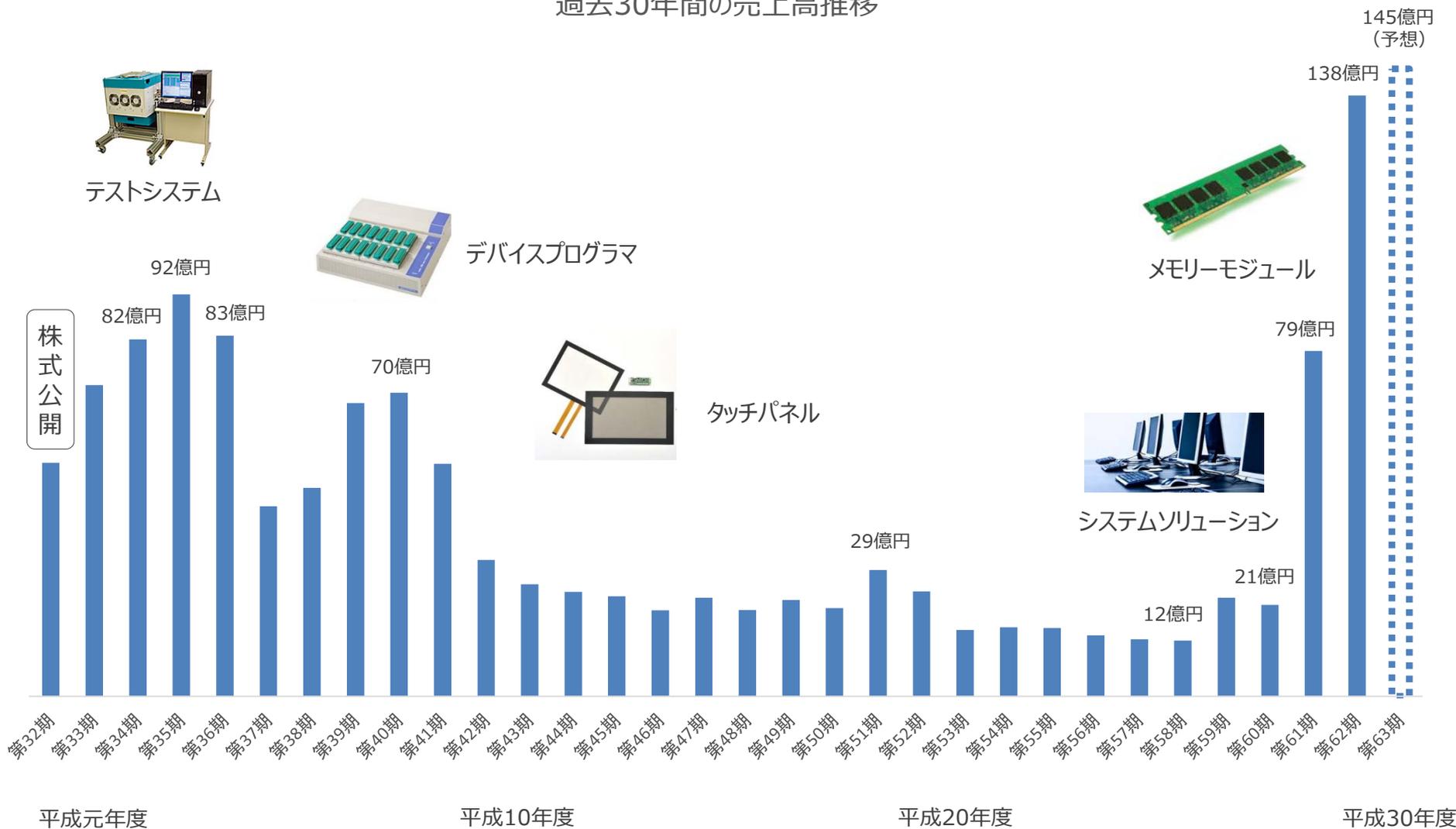
ウェブサイト構築
システム開発

日本サイン
ホールディン
グス(株)

サイン・広告事業

平成30年3月期は過去最高の売上高を達成

過去30年間の売上高推移





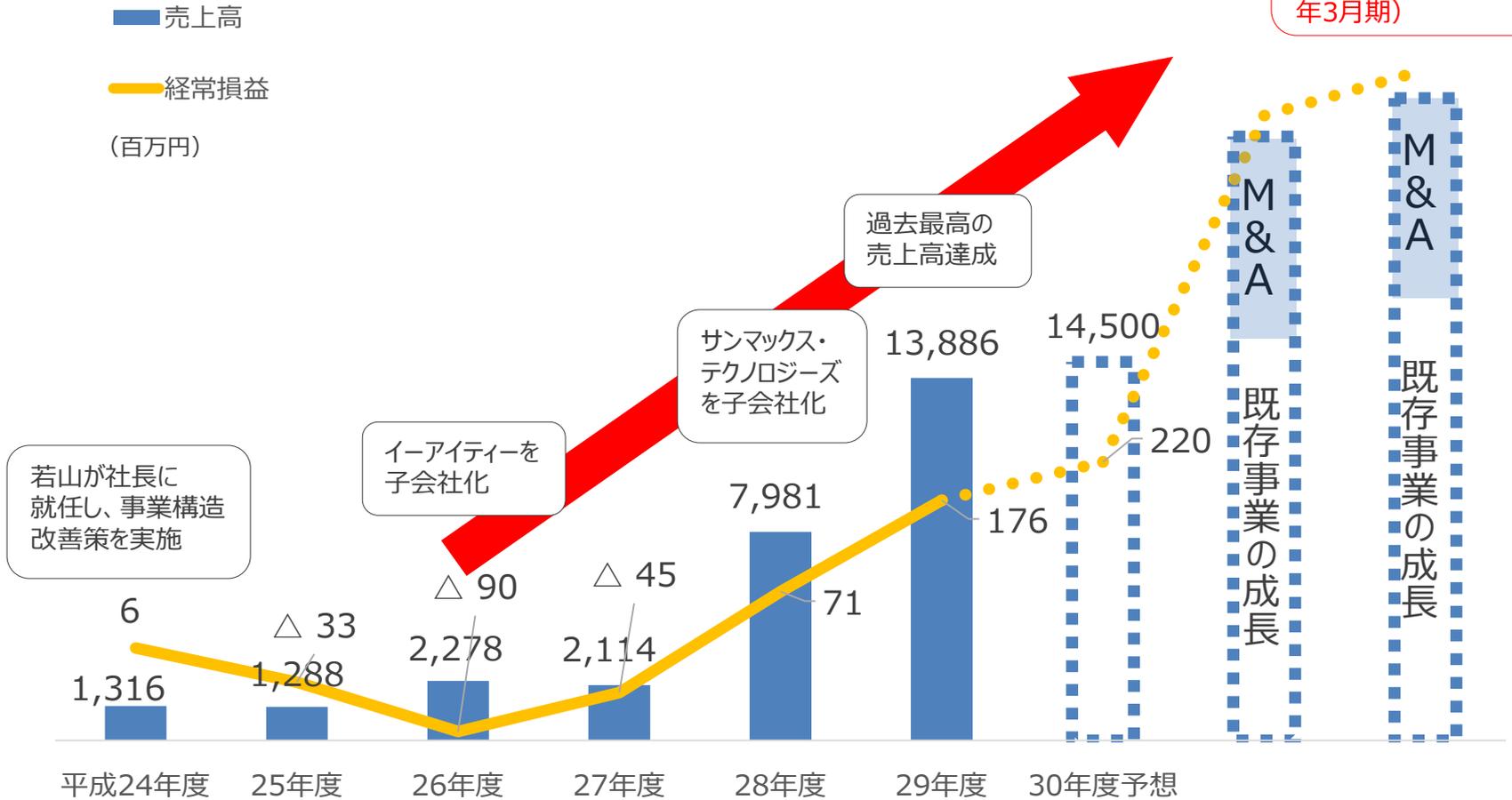
平成31年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

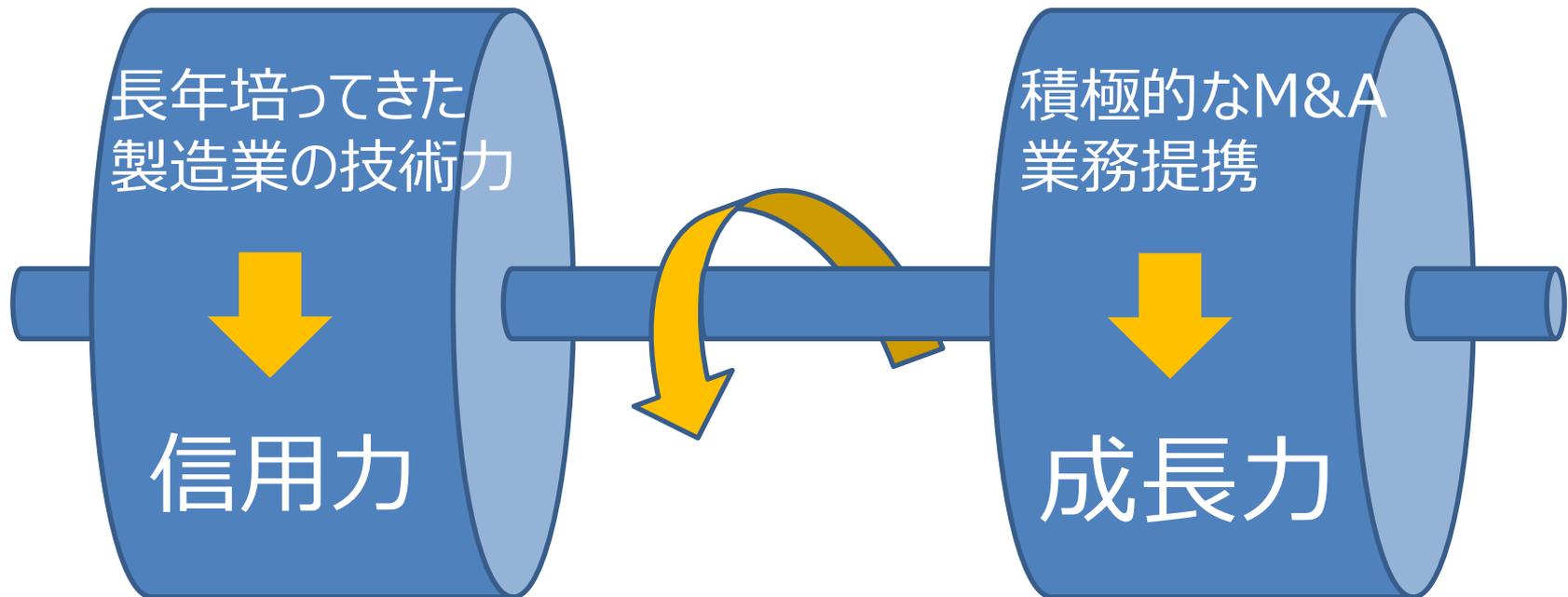
	平成30年 3月期	平成31年3月期 連結業績予想	成長率
売上高	13,886	 14,500	4.4%増
営業利益	252	 265	5.2%増
経常利益	176	 220	24.8%増
当期純利益	151	 170	12.2%増

売上高および経常損益の推移

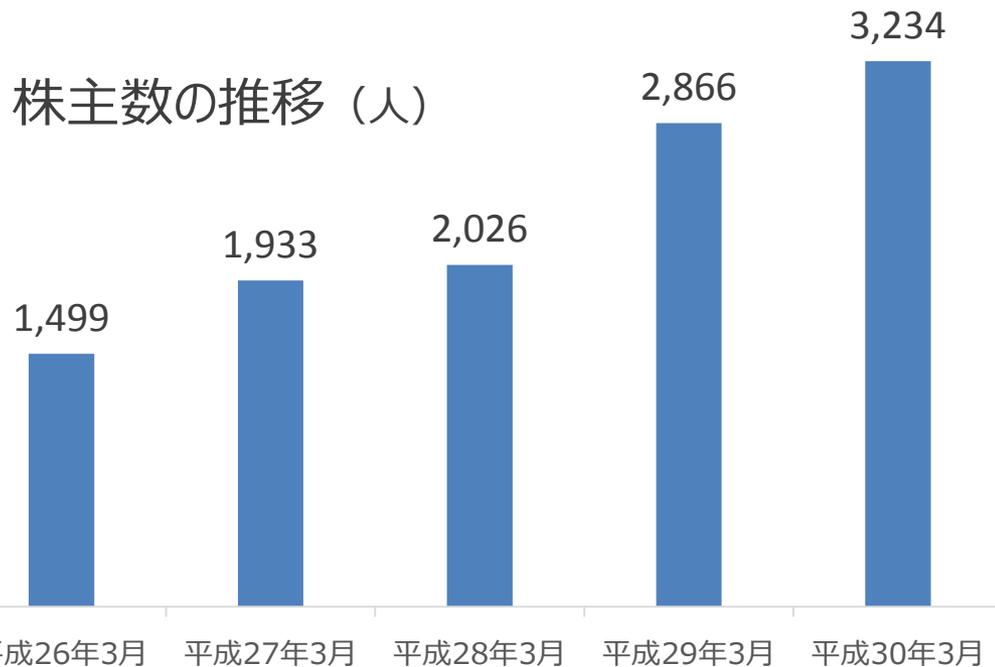
過去最高の利益達成を目指す（最高純益577百万円／平成3年3月期）



メーカーとして長年培ってきた信用力、および積極的なM&Aと業務提携による成長力を活かし、将来的には東証一部上場、売上高500億円を目指す



- 経営の透明性、客観性を高めるため、社外取締役を選任
- 一昨年度より決算説明会を開催、前期からは個人向けIR説明会を複数回開催
- 株主・投資家とのコミュニケーションを重視した結果、注目度が高まり、株主数が順調に増加



【当社株式の所有者別分布状況】

個人	: 79.5%
証券会社	: 10.4%
外国人	: 4.3%
国内法人	: 4.2%
金融機関	: 1.6%

ミナトホールディングス株式会社

JASDAQスタンダード：6862
<http://www.minato.co.jp/>

IRに関するお問い合わせ・各種取材のお申込みは、
広報マーケティンググループまでお願いいたします。
TEL:03-5847-2030 FAX:03-5847-2040

<注意事項>

本資料に記載されている将来の予測や見通しにつきましては、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいており、見通しの達成を保証するものではありません。実際の業績は、これら業績見通しとは異なる可能性があることをご了承ください。